



木曾川下流自然観察会

<http://owari.eco.coocan.jp/kisogawa.html>

日時 2018年4月8日(日) 9:30~12:00 (曇り晴小雨)

参加者 一般：8名(うち子ども3名)、

指導員：7名

テーマ 「動き始めた虫を探そう！」

いろいろな花が咲き始めるとともに、モンシロチョウなどの虫を見かけるようになりました。昨年の観察会では蝶が8種も見られていたので、今回は虫をテーマにしました。しかし、あいにくこの日は寒冷前線が通過し、北陸では雪が降るほど気温が低く、加えて曇り空とあって最初は飛んでいる蝶の姿はありませんでした。

最初に見た虫はエノキの若葉にいたゴマダラチョウの幼虫でした。冬の間、落葉の下で過ごしていたものが、幹を登って葉に至ったばかりのようで、まだ体色が褐色のままで、葉で過ごす時の保護色の緑色になっていませんでした。よく見ると、幼虫と葉の間に糸のようなものが張られていることがわかります。この幼虫はこのようにして自分の居場所を固定する習性があるとのことでした。

その後、少し日が射してきた時、蝶が飛び始めました。参加した子どもたちがさっそく捕虫網を持って追いかけて、ヤマトシジミ、ツバメシジミ、ベニシジミ、モンキチョウを捕まえてくれました。虫かごに入れて、3種のシジミチョウの違いをじっくり見ることができました。

他に見られた虫はナナホシテントウ、ヨコヅナサシガメ、ハムシspくらいでした。

さて、昨年協議会が調査対象とした外来植物のメリケントキンソウですが、駐車場周りの街路樹の下やバラ園の周りで葉を伸ばしていました。どこまで広がったか確認していませんが、昨年より多そうな感じです。

天気が安定せず、時々、雨が降って木陰に退避しながらの観察会になりましたが、花はいろいろと楽しめました。

観察会の終了後、この日はたまたま138タワーの展望室まで階段を使って上ることができる日だったので、挑戦して、尾張自然観察会会員の高原さんが出している「アートする昆虫展」を見学してきました。(報告：齋竹)

<その他観察できたもの>

鳥：ツグミ、キジバト、ヒヨドリ、エナガ、シジュウカラ、ツバメ、トビ、スズメ、ムクドリ、メジロ、コゲラ、モズ、ウグイス(声)

花：セイヨウザイフリボク、ニホンタンポポ、セイヨウタンポポ、オニタビラコ、ヒメブタナ、オオイヌノフグリ、ムラサキサギゴケ、キランソウ、カキドオシ、スミレ、タチツボスミレ、ムラサキケマン、ヤブニンジン、セントウソウ、カラスノエンドウ、スズメノエンドウ、カスマグサ、



(セイヨウザイフリボクの花を観察中)



(ゴマダラチョウの幼虫)



(ベニシジミ)



(ヤマトシジミ)



(ツバメシジミ)